

JAMの主張

労使で勇気をもって前へ進もう

取引慣行の是正が不可欠

2021年1月1日新年号あいさつ

JAM会長 安河内賢弘

【機関紙JAM・2021年1月1日発行 第263号】



謹んで新年のご祝辞を申し上げます。

組合員並びにご家族の皆様におかれましては、幸多き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

本年ほど大きな不安のなかで迎えた元旦はないのではないのでしょうか。COVID-19の蔓延は、私たちが最も大切にしている家族や友人、職場の仲間たちとの交流を奪い、市場経済の最も基本的な営み、すなわち人と人との交流の中で、様々な商品やサービスが貨幣を通じて交換されるという営みが制限され、サービス業や交通産業に大きな打撃を与えました。

また、医療や介護をはじめとする私たちの社会を根底から支えるエッセンシャルワーカーに過大な負担を強いているにもかかわらず、彼らの労働条件が低位に抑えられていることも浮き彫りになりました。

私たちの生活の向上と労働条件の改善のために、社会の健全な発展は不可欠です。当面は、手洗いやマスクの着用など私たちにできることを徹底しながら、世界に後れを取ることなく回復を果たすための入念な準備が必要です。

私たち人類は幾度となく危機に陥りながら、人類固有の武器である英知と団結をもって歴史をつないできました。危機は必ず乗り越えることができると歴史が教えています。

現下の状況では労使の議論も後ろ向きになりがちですが、この様な状況だからこそ労使で勇気をもって前に進むことが重要ではないかと考えています。日本経済の回復のためには力強い個人消費が不可欠であることは論を待ちません。雇用を守ることは労使双方の責務であり、その上で労働条件の改善が重要です。そのためには、取引慣行の是正が必要不可欠となります。今は日本全体が一致団結して危機を乗り越えていかなければならない時です。このような時代に、中小企業に負担を押し付けるような経営は言語道断と言わなければなりません。

結びとなりますが、国内外で働くすべての組合員とそのご家族の皆様にとって、2021年が健康で幸多き年となりますようにご祈念を申し上げ、ご挨拶と致します。